

「わたしの仕事が高齢者を支える」を伝える事業

1 研究題目 「わたしの仕事が高齢者を支える」を伝える事業

2 目的等

《背景》

- 2025年には団塊の世代が全て75歳以上となり、認知症や医療ニーズを持つ要介護高齢者の増大が見込まれる。要介護高齢者の増大に伴い、介護人材も必要になるところ、2025年には全国で約34万人、広島県では約6,700人の介護人材が不足すると推計されている。
- 広島県が令和元年度に行った調査では、介護職員1人当たりの要介護認定者数は現在4.9人、2025年には6.4人、2040年には9.3人となることから、介護職員の負担は年々大きくなることが明らかであり、介護人材の確保が喫緊の課題となっている。

《府中市の課題》

- 府中市は、圏域人口が少なく、介護従事者の確保が一層困難となっている。
- 介護事業者が求人募集をしても応募が少なく、介護事業者は介護職員の確保に苦戦している状況である。

《この事業の目的》

- 介護への親しみを広げ、介護が将来の職業として意識されるよう、介護現場の魅力（いきいきとした仕事、笑顔に満ちた仕事、緊張感のある仕事、やりがいのある仕事等）を発信すること。
- 府中市内の介護事業者の臨場感あふれる魅力を発信すること。

3 研究内容

学習指導要領改訂により家庭科で介護に触れることとなる小学生、中学生、高校生を主たるターゲットとして、この事業の目的である”介護の魅力（とりわけ府中の介護の魅力）を最大限に発信する”ツールの開発を行う。

《ツールによる効果（イメージ）》

- ① 将来の担い手となる小学生・中学生は・・・
 - ・介護を通じた高齢者との関わりを踏まえ、家族・家庭・地域との関わりについて考えることができるようになる。
 - ・高齢者の身体の特徴（視力や聴力、筋力の低下等）、立ち上がりや歩行等の介助方法を理解する。
 - ・身近にある府中市内の介護事業所で働く介護職員の仕事ぶりを通して、介護の魅力を知る。
- ② 就職活動期の高校生・大学生、一時的に介護から離れている者、中高年齢者は・・・
 - ・介護保険制度や地域包括ケアシステムを踏まえ、高齢者を取り巻く社会の課題について考えることができるようになる。
 - ・高齢者の心身の特徴、高齢者と関わる際に重要な尊厳や自立の視点、介助の基礎的な技能（車椅子の操作や移動・移乗の介助、食事・着脱衣の介助等）を理解する。
 - ・身近にある府中市内の介護事業所で働く介護職員の仕事ぶりを通して、府中市内の介護事業所への就職を意識する。

4 成果品

- 主たるターゲットである小学生、中学生、高校生が家庭科の補助教材として活用可能なものとする。
- 府中市ホームページ等で広く公表することに留意し、子どもから高齢者まで様々な年代の方に関心を持ってもらえるものとする。

5 その他

- 府中市内の介護事業所で働く介護職員の実態（仕事ぶり・生声・施設の魅力等）を盛り込んだツールを開発する。
- 主たるターゲットとする者と年代が近く、自身も近い将来に就職を見据える大学生が関わるという強みを生かし、主たるターゲットの記憶に残るツールを開発する。